

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究

王 天 恵

Bibliographic Research on the Ding's Medical Series

WANG Tianhui

Abstract:

The Ding Medical Series should not be limited to the Ding Fubao's translation, but rather include all the documents related to medicine, hygiene, and health preservation, some translated by the outsiders and published by the Ding.

From the point of view of the Ding Shi Medical Series in the broad sense, this paper confirms the existence of 237 types of medical books related to the Ding Fubao's translation, compilation, and publication by using databases and library materials. Among those, 182 are the statistics of previous studies, which were verified again as a part of this survey, and the errors within them were corrected. As a result, 55 new types were found and 35 original text types were confirmed.

Keywords: Ding Fubao; Ding's medical series; modern China and Japan; medical history; bibliography

キーワード：丁福保 丁氏医学叢書 近代中日 医学史 書誌学

はじめに

丁福保は清末から民国にかけて多くの医学書を翻訳・編纂したのみならず、自ら経営した上海医学書局からも医学書を大量に出版した。その中で「丁氏医学叢書」は民国政府内務部の奨励などを得たほど当時大きな影響を与えていた。丁氏が翻訳と出版に関わった医学書は実に膨大な数に及び、内容も多岐にわたるため、学界ではいまだにその全容が把握されていない。これらの医学書に関して、これまで牛亜華と馮立昇、鄒振環、劉玄、松枝茂らが整理したことがあるが、各自の統計に数の差があまりにも大きかった。例えば、牛亜華と馮立昇が統計した数は98種で（牛・馮 2004：322-326）、鄒振環の統計も同じ98種であるが（鄒 2011：42-43）、統計に入れた本は両者の間で異なる部分がある。また、劉玄の統計は132種で（劉 2015：181-194）、松枝茂の統計は174種にものぼる（松枝 1944：264-268）。このような数の差は異なった統計方法によるものであり、丁氏医学思想をどのように理解したらよいかという問題とも関わってくるので、書誌的に研究する必要がある。そこで、本稿では先行研究を踏まえ、丁氏が翻

訳と出版に関わった医学書を改めて詳しく調査し、整理してみたい。

一、目録整理の現状

丁福保の医学書について、学界では早く陳邦賢の『中国医学史』（陳 1937）で取り上げられたことがあるが、その後長い間あまり注目されておらず、2000年以降、ようやく研究者の注目を集めるようになってきた。

牛・馮（2004）は、丁福保が1909年日本を訪れ、近代医学の研究と医療交流を行ったことを詳しく考察し、丁福保の医学書を整理した。牛・馮（2004）は、丁福保の回想録『疇隱居士學術史』に基づき68種の医学書を挙げた上で、他の医学書を30種類追加した。この両者を合わせると98種になる。ただし、この統計では間違った所がやや多い。例えば、『新撰解剖学講義』の原作者は森田齊次であるが、統計表には「森田奇次」と書かれている。『新撰病理学講義』の原作者は田中祐吉であるが、「田中佐吉」と間違えられている。1913年版の『組織学総論』の出版社は「文明書局」と表記されているが、筆者が実物で確認したところでは、「医学書局」であった（下 1913：版權ページ）。これらの誤りから見れば、牛・馮（2004）の統計は、実際に原書を確認していないものが多いのではないかと推測される。

また、牛・馮（2004）の論文は「丁福保與近代中日医学交流」という題名の主旨から、丁氏が翻訳・編纂した日本の医学書を重視する反面、丁氏が編纂した漢方の書や、丁氏以外の人が翻訳・編纂した医学書を集計していない。

鄒（2011）は、「丁氏医学叢書」が日本の西洋医学の知識と医療制度を総合的に反映し、当時大きな影響を与えたのだと評価して、牛・馮（2004）と違った統計方法で目録を整理した。鄒（2011）の論文は中日医学交流ではなく「丁氏医学叢書」を中心に置いたため、その統計が本の表紙に「丁氏医学叢書」と印刷された医学書に的を絞っている。したがって、表紙に「丁氏医学叢書」と印刷されたものであれば、統計に入れた。その中に丁福保が翻訳・編纂した医学書もあれば、他の人が翻訳・編纂したのものも含まれる。

鄒（2011）の統計は、実物で確認した書籍だけを採録するという方針で整理されたので、そのデータの信憑性が高いと評価してよからう。鄒（2011）が丁氏以外の人が翻訳・編纂した医学書を統計に入れ、調査範囲を拡大したにもかかわらず、最終的に集計したのは98種で、牛・馮（2004）の統計数と同じであった。それは、実物で確認できない限り、丁福保の回想や牛・馮（2004）の統計に出ている書物も排除したためだろう。

劉玄は著書『通俗知識與現代性』（2015）の付録に132種の医学書を挙げている。その数は牛・馮（2004）と鄒（2011）をはるかに上回る。劉（2015）の統計の最大の特徴は、鄒（2011）と牛・馮（2004）が顧みない漢方の古籍や養生類の書籍を取り入れたことにある。しかし、牛・馮（2004）と同じように、劉玄の統計にも丁氏以外の人が翻訳・編纂した医学書が含まれていない。劉（2015）は自分の整理方法を説明していないため、これらの目録は自分で実物で確認したものか、それとも他の書誌情報に基づいて整理したものかを判断するのは難しい。例えば、その統計表には『肺結核予防法』の原作者が竹中成憲と寺尾国平と表記されているが、筆者が原書を確認したところ、原作者は竹中成憲だけで、寺尾国平は

いなかった。この間違いは、牛・馮（2004）の統計表にも見られるので、劉（2015）が牛・馮（2004）の統計を参考したものかと思われる。

日本医学史家松枝茂の事情はやや特別である。1944年に『日本医学史学雑誌』に掲載された松枝の論文『日支医学交流史の人丁福保』では、174種と統計されている。松枝の調査は時間的に早かったが、3人の中国人研究者の集計数をはるかに上回っている。その理由は、まず、牛・馮（2004）も鄒（2011）も排除した漢方の書や養生類の書を収録したことである。次に丁氏以外の人が翻訳・編纂した医学書にある程度目を配ったことである。但しその中にも間違いがいくつかある。たとえば、『人類の生殖』は『人類ト生殖』と、『食物新本草』は『倉物新本草』と、誤植されている。

とはいえ、松枝の統計数が先行研究の中で最も多いので、資料として大変貴重である。丁福保の翻訳と出版に関わった医学書を最も多く収録できたのは、恐らく彼が当時中国にいたことと関係があるだろう。当論文の末尾の付言によれば、松枝茂は自ら開業した医学史の研究者で、1940年代に徴兵されて中国に渡ったということがわかる。この論文は戦時中中国で書いたものである。したがって、当時、彼は後に散逸したいくつかの資料を目にしたのだろうと考えられる。今まで学界では松枝の論文が無視されてきたのは極めて残念である。

二、「丁氏医学叢書」とは

上述したように、牛・馮（2004）、鄒（2011）、劉（2015）及び松枝（1944）の統計には大きな差がある。それは、彼らが「丁氏医学叢書」に対する理解に2つの重要な相違があると思われる。

第一の相違は、「丁氏医学叢書」は丁福保が翻訳・編纂した医学書に限定されるべきかどうかにある。

牛・馮（2004）も劉（2015）も、丁福保が翻訳・編纂・校正に携わった本だけを集計している。これに対し、鄒（2011）と松枝茂は上海医学書局から刊行された丁氏以外の人が翻訳・編纂した医学書もある程度統計に入れたのである。この問題に関して、丁福保は「改正丁氏医学叢書総序」で次のように述べている。

近世東西各国医学之發達如万馬之騰驤，如百川之匯萃，磅礴浩瀚，駸駸乎隨大西洋之潮流，渡黃海岸注入亞東大陸。俾不才肆其雄心，窮其目力，運其廣長之舌，大陳設而吸飲焉，豈非愉快事哉。然吾人雖如千手觀音向医学中各科目悉伸張其神臂，無一刹那頃之已時，而各学科光怪陸離之新理新法，一若對万花鏡之回轉循環，使人心接不暇。雖日寫五千言，積以數年之久，猶不足盡訊其所長以供医林之參考甚矣。夫医籍之浩博也，不得不延人繙訳，以代草創之勞矣。余則龜勉朝夕筆之削之，一再以書，往往至模糊不可辨，不自知手腕之幾脱也。於以知呂覽淮南子各成於賓客之手，之所以不足恃唐章懷太子，註後漢書魏王泰著括地志之成於衆手尤不足恃也，假手於人豈不難哉。經營拮据，曆有年歲，因成医書若干種，名曰丁氏医学叢書（丁 1913：4-5）。

丁福保はここで、自分一人ではこのような膨大な医学書紹介事業がとてできないので、他の人にも出版活動に参加してもらったことを述べている。「丁氏医学叢書総序」は2つの版がある。1908年の第1

版では、丁福保は他の人の参加の必要性に言及していないが、1913年になって「改正丁氏医学叢書総序」で他の人にも翻訳・編纂を頼まざるをえなくなった経緯を追加した。即ち、この5年間、丁福保はだんだん他の人に「万馬之騰驤」の如き「近世東西各国医学」の紹介に参加してもらうことの重要性を認識するようになってきたのである。そして、実際には上海医学書局から出版された医学書の中で、丁氏以外の人が翻訳・編纂した本の表紙にも「丁氏医学叢書」という文字が印刷してある。したがって、「丁氏医学叢書」を統計する場合、外の人のも書物も集計すべきだと思う。

第二の相違は、丁福保が編纂した中国古代の医学書と養生類の書物を「丁氏医学叢書」に入れるべきかどうかにある。牛・馮（2004）の論文は中日医学交流を重心に置いているため、日本からの医学書だけ統計している。鄒（2011）は論文の中でわざわざ中国古代の医学書と養生類の書物を統計から排除したと説明している（鄒 2011：41）。中国近代の医学形成に関して、「先進的な近代西洋医学の発展」と「立ち後れた漢方医学の凋落」を対比して論述されたことが多い。丁福保の友人顧彦聰は、「丁氏医学叢書」のために書いた「緒言」でも似たような考え方を持っている。「吾国医道失伝已久」と嘆きながら、「吾聞西国医術，初亦不精，近数百年解剖益詳，發明益速，几經改正，始有今日之偉觀」と褒めたたえている（顧 1926：2-3）。

この点に関して、丁福保は「丁氏医学叢書総序」で次のように述べている。

此東西各国医学分科之大略也，余擬薈萃中外各科書籍，不分門戶之見，不存騎牆之說，擘精覃思，冀有以得其会通焉（丁 1908：5）。

丁福保は中国医学と西洋医学のいずれも長所を発揮する価値があり、いずれも補わなければならない欠点があると考えている。中西各国の医学を大衆に普及させることは、当時の人々の健康のための急務だとしている。「丁氏医学叢書」と表記された書物の中に、『歴代医学書目提要』『歴代名医列伝』『内経通論 難経通論』などのように、中国古代医学と養生に関するものが多数入っている。したがって、中国古代の医学書と養生類の書物も当然「丁氏医学叢書」に入れるべきであろう。

「丁氏医学叢書」は狭義と広義に分けられる。狭義とは、表紙に「丁氏医学叢書」と印刷されたすべての書物を指す。広義とは、たとえ「丁氏医学叢書」と表記されていないとしても、丁福保と関係のある文明書局と医学書局から出版されたすべての医学、衛生、養生に関する書類を指す。上述したように、「丁氏医学叢書」の本来の目的が「万馬之騰驤」の如き「近世東西各国医学」の紹介にある以上、丁福保の医学思想の全体像を把握するために、むしろ後者の意味を取ったほうがよいと思われる。よって、本研究では、広義の意味で「丁氏医学叢書」を捉えることにする。

三、本研究の調査と統計の方法

先行統計の中で、鄒（2011）だけが自分の目で確認した書物を収録すると明言している。しかしそれでも、その中に呉建原編纂『中外病名対照表』を『中外医学名対照表』と誤記するなどの誤りがあった。しかも出版社の情報も全部欠けている。そこで本研究では、書誌情報の正確性を保証するために、先行

研究の統計データを、データベース、図書館蔵書情報、『出版目録（第9版）』（上 1936）などを活用して再検証・修正した上、新たな目録を追加して一覧表を作った。調査と統計の方法は以下の通りである。

「別表」

	書名	訳(述)者	作者(編撰者)	出版社	時間	備考
1	新傷寒論	丁福保	宮本叔、橋本節斎	医学書局	光緒34年5月出版、 1915年12月3版	
2	解剖学生理学訳名 異同表	丁福保				《医学指南正統三合編》 (1922)
3	人体解剖実習法	万鈞、徐雲	石川喜直	医学書局	1926年	読秀
4	外科診療要訣			医学書局		《歴代医学書目提要》 (1918) “医学書籍目録”
5	傷寒發微		曹穎甫	医学書局		《上海医学書局出版目録 第9號》(1936)
6	实用經驗治療学		葉祖章	医学書局	1920年3月	鄒

本調査では、できる限り本の実物を自分の目で確認することを基本とする。別表(1)のように、備考欄が空白である場合は、筆者が実物の存在を確認したことを表す。

実物を見ていない場合は、備考欄に書籍情報の出処を記入する。その出所について、信憑性の度合いによって以下の三段階に分類した。

第一：最も信頼できる情報源は、別表の(2)と(3)のように、丁福保編『医学指南 正統三編合集』とデータベース「読秀」（北京世紀読秀技術有限公司）によるものである。『医学指南 正統三編合集』は、医学書局から出版された医学書を宣伝するためにこれらの医学書の序と跋を集めて編纂したものである。だから、本の実物を見ることができなくても、『医学指南 正統三編合集』に関係書物の序と跋がある以上、その本がすでに出版されたと考えてよかろう。「読秀」とは、北京世紀読秀技術有限公司によって、中国の各図書館所蔵の紙書籍のカタログと一部の全文データ、および電子書籍などを同じプラットフォームに統合して書籍の情報を提供される超大型データベースである。「読秀」を利用して実物を確認できる。また、全文データを見ることができなくても、「読秀」に掲載されたカタログは、各図書館所蔵のものなので、その信頼性が高い。

第二：別表の(4)と(5)のように、丁福保経営の医学書局が出版した『歴代書目提要』に添付された「医学書局書目録」と単行本『出版目録（第9版）』（1936年）による情報である。この二つの目録は、丁福保が自ら経営の出版社から刊行した医学書を広く販売するための広告なので、実際に出版したかどうかは不確かなところがあるが、繰り返して掲載されたところから見れば、一応その情報を信用することもできるだろう。

第三：別表の(6)のように、先行研究の統計に出ているものである。これらの書物は、筆者が実物を見ていないし、「読秀」などにも確認できなかったが、「丁氏医学叢書」の散逸がひどい現状を考えれば、他の研究者がどこかで見たことが十分にありうるだろう。したがって、その情報を留保し、備考欄にその出所を明示した。

以上の方法により先行研究の統計データを再検証・整理した。重複したものと明らかに誤ったものを削除した後、併せて182種とあった。

その上で、今回の調査を通して新たに55種発見した。先行研究では、「丁氏医学叢書」は主に丁福保が翻訳・編纂した書物として理解されてきたため、その統計には丁氏以外の方が翻訳・編纂した医学書は完全に排除されたか、あるいは部分的にしか収録されていない。今回の調査で新しく発見した55種の医学書の中で、丁氏以外の作者の書物が35種あった。たとえば、丁惠康は丁福保の息子で、「丁氏医学叢書」の重要な訳者・編纂者の一人である。彼の『実験療肺学』（医学書局 1936年7月）は、「丁氏医学叢書」という表記がないためか、今までの統計に入っていない。しかし、結核はもとより丁福保が始終並みならぬ関心を払った疾患の一つであり、結核の治療に関する本を多く翻訳・編集したのである。丁惠康は、これらの訳書を吸収した上で、自分の治療経験に基づいて『実験療肺学』を書き上げたのである。この意味で「丁氏医学叢書」から生まれた重要な成果だといえよう。したがって、表紙には「丁氏医学叢書」という文字が印刷されていないが、丁福保経営の医学書局から出版されたものなら、広義の「丁氏医学叢書」に入れるべきだと思われる。似たようなケースはほかにもある。

従来の統計には、「丁氏医学叢書」という文字が印刷されているにもかかわらず、収録されていないものもあった。例えば、徐雲、万鈞訳『外科総論』（下平用彩原著、医学書局 1924年6月）の本文の一頁目には「丁氏医学叢書」と書かれている。過去の統計で漏れたのは、作者は丁福保ではないことのほかに、統計した当時データベースの整備がまだ不十分であったためだろう。筆者はこの本を「読秀」で発見したのである。データベースが進歩するにつれて、今後もより多くの発見が出てくることが期待される。

四、底本に関する考察

「丁氏医学叢書」には日本から翻訳された医学書が数多く含まれていることは広く知られているが、その底本についての考察はまだ甚だ不十分である。先行研究で明らかになったのは、僅か五つぐらいしかなかった。¹⁾ 丁福保の医学思想を把握するために、訳書の原本を確認することが不可欠である。原本との比較を通して、訳書は原本にどれだけ忠実であるか、どれだけの改変があるか、はじめて分かってくる。

丁福保が翻訳・出版と関わった医学書は膨大な数であり、編訳書も少なくないため、本稿では、現時点で原作者の名前が分かる本のみを対象に、底本の考察を試みた。

一番簡単なケースは、日本語著作の題名は訳書の題名と類似または同一であり、両者の目次も同じで

1) 牛・馮（2004：322）は「『新撰解剖学講義』の日本語原書は日本の慈恵医学専門学校の講義であり、内容は主にドイツの医学教科書から翻訳されたものである」と説明している。さらに「『漢方医典』の日本語の原題は『臨床漢方医典』である。」「『中外医通』の原題は『和漢製剤編』」、「丁氏訳『新万国薬方』は西洋と日本の薬学の最新成果を反映した薬学著作であり、原著は日本の医師恩田重信『新撰処方箋一万集』である」と指摘している。鄒振環（2011：45）は丁福保訳『医界之鉄椎』の底本は和田啓十郎の『医界之鉄椎』だと指摘している。呉苗の『中国近代首部漢訳日産科学著作《竹氏産婆学》探析』は、『竹氏産婆学』の原本は竹中成憲著『簡易産婆学』（1900年版）であることを考察した。

あることから、訳書の底本を推断することである。このようなケースとして、伊藤亀治郎編纂『新纂児科学』（丁福保訳『新纂児科学』）、横森賢治郎『臨牀内分泌病学』（下工訳『臨牀内分泌病学』）、宮田権之丞『妊婦診察法』（丁福保訳『妊婦診察法』）などがある。

但し、一部の底本は書名が同じでもいくつかのバージョンがあるので、正確に判断するために更なる詳細な比較が必要である。たとえば、晋陵県下工訳『組織学総論』の初版は1913年である。その底本となる二村領次郎の『組織学総論』は1908年の初版と1911年の2版があるが、どれが下工が使った底本だろうか。この二つのバージョンを下工の訳本と比較したら、第2版が底本だと判断できた。一つ目の根拠は、第1章の冒頭に置かれた説明である。下工訳『組織学総論』の第1章には、次の前置きがある。

籍顕微鏡之力，人体研究各部之微細構造及其物質之形状、性質，是謂之組織学。蓋人類及其他動物之元基為細胞。今先就細胞而詳述之，其次則論原於細胞變化之諸物質（下 1930）。

これは二村領次郎『組織学総論』2版第1章の前置きと同じである。「組織学ハ人体各部ノ微細ナル構造及ビ之ヲ作ル物質ノ形状性質ヲ顕微鏡ヲ以テ研究スル学ニシテ人間及ヒ其他ノ動物ノ元基ハ細胞ナレバ先ヅ細胞ニ就キテ詳述シ次ニ細胞ノ変化ニ依リ出来タル諸物質ニ就キテ論ズベシ（二村 1911：1）」。

しかし、このような前置きの内容は『組織学総論』の1908年の初版にはない。

二つ目の根拠は、書中使われた図である。『組織学総論』の初版は98枚であり、2版は130枚である。下工訳『組織学総論』には130枚の図がある。比較してみると、すべて『組織学総論』2版からのもので、排列順序も一致していることがわかる。以下の図3-1は、下工訳『組織学総論』の第2図であり、図3-2は二村領次郎の『組織学総論』第2版の図2である。

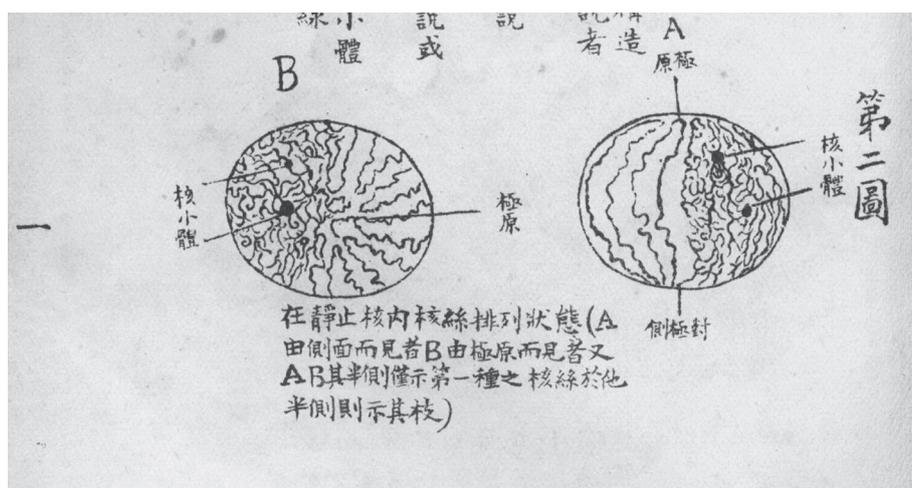


図3-1²⁾

2) 下 1930：1（AとBの間に「体」・「或」・「者」・「造」などの文字があるが、これは上の図の説明であるため、図3-1の内容と関係がない）

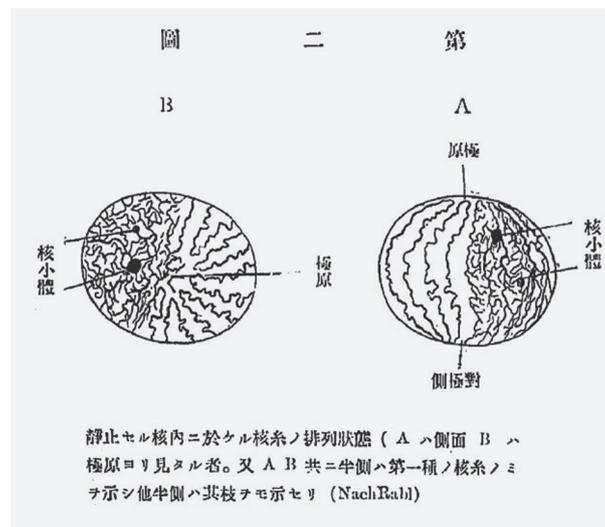


図 3-2³⁾

訳本の図2は、中国語訳がついているが、図の形と説明内容が二村の『組織学総論』2版の図2に対応している。この図も初版にはない。以上の根拠を以て、下工訳『組織学総論』は二村領次郎の『組織学総論』の第2版だと判断したわけである。

訳本と原著の題名が異なる場合、目次や内容の比較を通して、その底本を確認しなければならない。このようなケースとして、桂秀馬『外科講話(家庭衛生講話)』(丁福保訳『外科学一夕談』)、金沢巖『通俗治療救急法』(盧予甫訳『普通衛生救急治療法』)、小田部庄三郎『呼吸器病と運動療法』(丁惠康訳『肺癆実験新療法』)などがある。

上記の訳本はいずれも全書翻訳であり、内容の大幅な削減や追加が行われていない。しかし、題名も変わるし、原著に対する大幅な追加と削除が見られる場合も少なくない。たとえば、丁福保の『瘰癧之原因及治法』は三輪徳寛『外科叢書』(吐鳳堂, 1909年)から「第1編 淋巴腺結核一附・淋巴管結核」を抄訳したものである。万鈞の『応用診断学』(上海医学書局 1931年4月重版)は下平用彩『診断学 後編 増訂15版』(吐鳳堂)の付録部分から訳され、そして冒頭説明部分も書き換えられたのである。丁福保訳の『内科全書』は河内竜若著、丸茂文良訳『内科全書:臨床受験備考』を底本としながら、原著の3節の内容(尿検査法、内臓位置即診断の境界、微菌検査法)を削除し、巻末に「薬物学分類用量表」を追加されたのである。

このようにして、今回の調査では30種余の日本語底本を確認できた。

3) 二村 1911: 16

おわりに

「丁氏医学叢書」は丁福保が翻訳・編纂したものに限定すべきではなく、丁氏が出版に携わった外の人の翻訳・編纂したすべての医学、衛生、養生に関する書類も入れるべきである。このような総体的な視野がなければ、翻訳家であり、出版家でもある丁福保の医学思想を捉えることは不可能であろう。

本稿はこのような広義的な「丁氏医学叢書」という視点に立って、データベースや図書館の資料などを利用して、丁福保が翻訳・編纂・出版と関わった医学書を237種確認した。その中で、182種は、先行研究の統計であるが、今度の調査で再検証し、訂正・添削を行った。その上でさらに55種発見し、また35種の底本を確認した。

「丁氏医学叢書」は実用性が高いため、使い捨てが多く、どの図書館にもまとまった収蔵がなく、民間に散逸している。最近、この問題に注目し、北京燕山出版社は『丁福保文献集刊』の出版を開始した。ただし所収された丁氏の医学書は約100種ぐらいに過ぎず⁴⁾、本研究で集計した237種よりはるかに少ない。したがって、「丁氏医学叢書」の全面的な整理はまだ道遠しだといえよう。

最後に本稿で整理した書誌情報を以下の三つの表に分けて掲げておく。

表1：先行研究の統計を再検証・整理した目録（共182種）

番号	書名	訳(述)者	作者(編撰者)	出版社	時間	備考
1	蒙学衛生教科書		丁福保	文明書局	光緒29年9月初版, 光緒32年3月11版	
2	高等小学生理衛生教科書	丁福保	斎田功太郎	文明書局	光緒30年3月	
3	医学綱要	丁福保	富永勇, 川村舜治等	文明書局	光緒37年7月初版, 宣統元年10月再版	
4	薬物学綱要	丁福保	鈴木幸太郎著, 竹中成憲補訂	文明書局	光緒34年5月24日	
5	竹氏産婆学	丁福保	竹中成憲	医学書局	1908年1月	
6	育兒談	丁福保	足立寛	医学書局	光緒34年7月初版, 1917年5月4版	
7	普通薬物学教科書	丁福保		文明書局		
8	普通薬物学教科書続編	丁福保		文明書局	宣統元年潤月	
9	診断学実地練習法	丁福保		文明書局	宣統元年6月	
10	実験卻病法	丁福保	山都 (Eugen SandoW)	医学書局	光緒34年7月初版, 1920年5月5版	
11	身之肥瘦法	丁福保, 徐雲	田村化三郎	丁氏医院	宣統2年8月初版, 1914年3月再版	

4) 筆者は北京燕山出版社から2022年『丁福保文献集刊』が出版されニュースが中国の百度で見たが、残念なことに書店でも販売されていないし図書館にも収蔵されていないため、詳しい情報をまだ把握していない。

12	新撰急性傳染病講義	丁福保		文明書局	宣統2年12月初版	
13	組織学総論	下工	二村領次郎	医学書局 (丁氏医院)	1913年12月	
14	医話叢存		丁福保	文明書局	宣統2年11月	
15	病原細菌学 (前編 後編)	丁福保	佐佐木秀一著, 緒方正規、横手千代之助閱	医学書局	1914年5月	
16	漢法医典	丁福保	日本漢医八十翁井上香彦先生経験, 日本医学士野津猛男	医学書局	1916年7月初版	
17	瘰癧之原因及治法	丁福保	三輪徳寛	医学書局	宣統3年3月初版, 1917年4月再版	
18	司氏眼科学 克氏耳科学	丁福保		医学書局	1918年4月	
19	新纂兒科学	丁福保	伊藤亀治郎	医学書局	1930年1月	
20	応用診断学	万鈞	下平用彩	医学書局	1926年10月, 1931年4月再版	
21	中薬淺説	丁福保著, 程翰章校訂		上海: 商務印書館	1933年3月初版, 1934年3月再版	
22	内科学綱要	丁福保	安藤重次郎、村尾達彌、瀬尾雄三	医学書局	1908年6月	
23	内科全書	丁福保	河内竜若著, 丸茂文良閱	文明書局	光緒34年7月初版	
24	南洋医科考試問題答案附一夕話	丁福保		文明書局	1909年	
25	薬物学一夕談 附良方偶存	丁福保		医学書局	1911年8月	
26	医師開業術	万鈞	立神正夫	医学書局	1930年10月	
27	赤痢実験談 (附痢病二周記)	丁福保		医学書局	1917年12月	
28	頓死論	丁福保		医学書局	1917年12月	
29	子之有無法	丁福保、 徐雲	田村化三郎	文明書局	宣統元年11月	
30	肺病預防法	丁福保	竹中成憲	医学書局	光緒34年正月初版, 1917年4月4版	
31	化学実験新本草	丁福保		文明書局	宣統元年6月	
32	喉痧新論	丁福保		医学書局	宣統元年4月初版, 1922年3版	
33	普通医学新智識	丁福保		医学書局	1926年8月	
34	無薬療病法	華申祺訳, 丁福保校	系(糸)左近	医学書局	1927年2月	
35	妊娠生理篇	華文祺, 丁福保	今淵恒壽	医学書局	1910年	読秀
36	外科学一夕談	丁福保	桂秀馬	医学書局	宣統2年10月初版, 1917年3版	
37	分娩生理篇 産褥生理篇	華文祺, 丁福保	今淵恒壽	医学書局		《歴代医学書目提要》 (1918)“医学書籍目録”
38	肺癆病救護法	丁福保		医学書局	宣統3年正月出版, 民国元年8月再版	

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究（王）

39	預防傳染病之大研究	丁福保		文明書局	1911年	読秀
40	臨床病理学	丁福保	田中祐吉	医学書局	1912年5月	
41	食物新本草	丁福保		文明書局	宣統2年9月	
42	近世催眠術	華文祺, 丁福保	熊代彦太郎	文明書局	宣統3年7月	
43	西洋医学史	丁福保		医学書局	1914年	
44	医科大学病院經驗方	万鈞		医学書局	1914年11月	
45	中外薬名對照表	万鈞		医学書局	1913年8月	
46	富氏産科及婦人科学	丁福保		医学書局	1918年	
47	神經衰弱之大研究	華文祺, 丁福保		医学書局	宣統2年8月初版, 1919年12月再版	
48	新撰病理学講義	丁福保	田中祐吉	文明書局	宣統2年3月	
49	医界之鐵椎	丁福保	和田啓十郎	医学書局	1911年9月初版, 1917年5月再版	
50	看護学	丁福保		医学書局	1915年1月初版, 1925年4月5版	
51	近世内科学書 (上, 下冊)	丁福保	橋本節齋	医学書局	1914年2月出版, 1920年1月再版	
52	肺結核之人工氣 胸療法	沈乾一	佐久間利之	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》 (1936)
53	人体解剖実習法	万鈞, 徐雲	石川喜直	医学書局	1926年	読秀
54	実験衛生学講本	丁福保	山田謙次	医学書局	不詳	読秀
55	新撰解剖学講義	丁福保	森田齊次	医学書局	不詳	
56	生理学講義	孫祖烈	宮入慶之助	医学書局	1916年7月	
57	皮膚病学美容法	丁福保	山田弘倫	医学書局	1929年10月	
58	妊婦診察法	丁福保	宮田権之丞	医学書局	宣統3年5月出版, 1916年3月再版	
59	(漢訳) 臨床医典	丁福保	筒井八百珠	医学書局	1913年4月	
60	新万国薬方	丁福保	恩田重信	医学書局	1926年6月	
61	心理療法	盧謙	井上圓了	医学書局	1917年	読秀
62	臨床内分泌病学	下工	横森賢治郎	医学書局	1933年5月	
63	普通衛生救急治 療法	盧予甫	金沢巖	医学書局	不詳	
64	診断学大成	丁福保	橋本節齋	医学書局	1940年再版	初版文明書局
65	薬物学大成	丁福保		文明書局	民国元年正月	
66	肺癆実験新療法	丁惠康	小田部莊三郎	医学書局	1933年6月	
67	実用人体寄生蟲 病編	丁福保	小西俊三	文明書局	宣統2年2月	
68	産科学初步	丁福保	伊庭秀栄 著, 浜田玄達 閱	文明書局	宣統元年8月	
69	肺癆病学一夕談	丁福保		医学書局	宣統3年再版, 1914年3版	封面題《肺癆病一夕談》, 正文題《肺癆病学一夕談》

70	小兒養育法一卷	周家樹	渡邊光次	無錫丁氏 疇隱廬石印	清光緒間	張曉
71	胎生学	丁福保	大澤岳太郎	医学書局 (丁氏医院)	1913年12月	
72	中外医通	丁福保	赤木勘三郎	医学書局	1926年9月	
73	实用經驗良方・ 兒科經驗良方		丁福保、李祥麟	医学書局	民国元年5月出版, 1915年4月再版	
74	生殖譚	丁福保、 華文祺	渡邊光国	文明書局	1910年出版, 1924年6月7版	劉
75	丁訳生理衛生教科書	丁福保	高橋本吉, 山内繁雄	医学書局	1914年	読秀
76	新傷寒論	丁福保	宮本叔、橋本節斎	医学書局	光緒34年5月出版, 1915年12月3版	
77	德国医学叢書	丁福保	寺尾国平	医学書局	宣統元年5月初版, 1918年3月再版	
78	近世法医学	丁福保		文明書局	1911年	読秀
79	皮膚病学	丁福保	筒井八百珠	医学書局	1912年6月初版, 1940年6月再版	読秀
80	胃腸養生法	丁福保		医学書局	宣統2年2月出版, 1914年4月再版	初版文明書局(読秀)
81	近世婦人科全書	丁福保	竹中鑑之助, 望月寛一	訳書公会(総発 行所)、文明書 局(發行所)	壬子正月	
82	家庭新医学講本		丁福保	文明書局	1910年3月2版	劉
83	実験細菌学					松枝
84	倍氏神経系病学	丁福保				松枝
85	病理学一夕談	丁福保		医学書局	1935年9月10版	
86	不費錢最真確之 長寿法		丁福保	医学書局	1940年1月	
87	不妊症及治法	周藩	宮田權之丞	医学書局	不詳	
88	初等診断学 教科書	丁福保		医学書局	宣統元年正月出版, 1920年7月4版	
89	伝染病之警告					《歷代医学書目提要》 (1918)“医学書籍目録”
90	伝染病預防之大 研究	丁福保		文明書局	1911年	松枝
91	創傷療法					《歷代医学書目提要》 (1918)“医学書籍目録”
92	二十世紀新本草					松枝
93	発熱之原理		丁福保	医学書局	1926年10月	鄒
94	発疹全書	孫祖烈		医学書局	不詳	読秀
95	肺癆病之天然療 法	丁福保		医学書局	1913年	
96	肺癆闘病術(一 名肺病最經濟之 療養法)		丁福保編, 丁惠康校	大通路二三七弄 瑞德里六號發行	1940年1月出版, 1940年9月再版	
97	用科学來改造中 年後之命運法		丁福保	医学書局	1941年5月	

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究（王）

98	公民衛生必讀					松枝
99	古方通今		貞庵主人校	文明書局	不詳	
100	国医補習科講義	丁福保		医学書局	1935年10月	
101	漢藥実験談	下工		医学書局	1914年3月出版, 1918年7月再版	
102	家庭新本草	丁福保		文明書局	宣統元年乙酉閏月	
103	健康生活叢書		丁福保	医学書局	1933年	
104	脚氣病之原因及治法		丁福保	医学書局	1926年9月	
105	結婚與優生学		丁福保	医学書局	1940年6月	
106	近世肺病新療法		丁福保	医学書局	1941年6月	
107	近世長寿法 (線裝書)	丁福保		朱士林	1912年5月	
108	霍亂新論・瘧疾新論 合編	丁福保		医学書局	宣統元年5月出版, 1920年3月3版	
109	人体生理圖	丁福保		医学書局	不詳	
110	静坐法精義		丁福保	医学書局	1926年8月4版	
111	癆蟲戰爭記		丁福保	医学書局	1912年3月出版, 1916年6月再版	
112	老人延年術、老人性尿閉症 合編		丁福保	医学書局	不詳	
113	歷代名医列傳		丁福保	文明書局	宣統元年12月	
114	歷代医学書目提要		丁福保	医学書局	宣統2年8月初版, 1918年5月再版	初版文明書局
115	馬氏精神病学					松枝
116	蒙学生理教科書	丁福保		文明書局	光緒29年8月初版, 31年5月7版	
117	免疫学一夕談	徐雲、 丁福保		文明書局	宣統3年2月	
118	民衆新医学叢書		丁福保	医学書局	1933年3月	
119	内經通論、難經通論		丁福保	医学書局	1926年8月	
120	腦髓與生殖之大研究					《医学指南》1922
121	内科分類審症法	丁福保		医学書局	不詳	
122	内科学症候讀本		下工		不詳	線裝書籍
123	内科一夕談				不詳	松枝
124	人類的生殖	華文祺、 丁文毅		医学書局	1926年8月	
125	日光療病法		丁福保	医学書局	1941年11月	
126	刪定傷寒論		南涯吉益刪定	医学書局	宣統2年4月初版, 1916年5月再版	
127	傷寒論通論		丁福保	医学書局	宣統元年12月初版, 1915年12月再版	
128	生理衛生学講義	丁福保		医学書局	不詳	
129	生命觀衛生長寿法				不詳	松枝

130	喜氏頸病及胸病、 施氏喉頭病学	丁福保		医学書局	1918年4月	
131	实用医学		丁福保、陳存仁	医学書局	不詳	
132	食物與早老		丁惠康校勘	医学書局	1939	
133	食物最經濟法		丁福保	医学書局	1941年4月	
134	鼠疫一夕談				不詳	松枝
135	衰老之原因及其 預防	丁福保		医学書局	1940年5月	
136	四庫提要医学類				不詳	松枝
137	衛生学問答		丁福保	文明書局	光緒26年初版, 光緒31年增訂10版	
138	衛生延年術		丁福保	医学書局	1941年10月再版	
139	瘟疫新論・霍亂 新論				不詳	松枝
140	西洋按摩術講義	丁福保		文明書局	宣統2年10月初版	
141	西藥實驗談	丁福保		医学書局	宣統元年12月初版, 1923年6月5版	
142	喜氏頸病及胸病				不詳	単行本未見
143	現代精神病学				不詳	松枝、牛、劉
144	新脈学一夕談		丁福保	医学書局	1926年	読秀
145	新医学六種		丁福保	医学書局	宣統3年初版, 1918年7月再版	
146	新撰虚癆講義	丁福保		医学書局	1926年8月初版	
147	学校健康之保護		丁福保	訳書公会	宣統3年10月初版	
148	医説及続医説				不詳	松枝
149	普通 医学問答		丁福保	医学書局	宣統2年12月初版, 1918年5月再版	
150	医学新名詞解釋		万鈞	医学書局	1927年10月	
151	怎樣創造我的健 康生活		丁福保	医学書局	1942年7月	
152	怎樣調理使你身 体強壯		丁福保	医学書局	1941年9月	
153	診斷学一夕談		丁福保	医学書局	宣統2年6月初版, 1914年12月再版	
154	自然療法 / 德国 式自然健康法 / 清潔之標準 合編	丁福保		医学書局	1934年12月	
155	結婚與衛生		守一子	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》 (1936)
156	万国衛生博覽会 章程		万国衛生博覽会編		不詳	該文刊載於《中西医 学報》民国元年第3 年第2期。據鄒統計 見過単行本。
157	簡明外科学	万鈞	川村泰次郎	医学書局	1940年6月	
158	新本草綱目	下工	小泉榮次郎	医学書局	1933年校訂重印	
159	普通防疫法	丁福保	川德治郎	不詳	1929年10月	劉

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究（王）

160	肺病指南		丁福保	医学書局	1933年9月出版, 1935年4月3版	
161	食物療病法		丁惠康校勘	医学書局	1939年1月出版, 1940年12月再版	
162	現代最真確之生命觀 最真確之衛生長寿術(合刊)		丁福保	医学書局	1942年2月	
163	医学指南		丁福保	文明書局	光緒34年7月初版, 宣統3年5月5版	
164	医学指南正統三合編		丁福保	医学書局	1912年1月初版, 1922年9月4版	
165	中風之原因及治法	丁福保		医学書局	1913年10月	
166	丁氏臨證指南		丁福保	医学書局	1917年	
167	医学門徑語(線裝書)		丁福保、陳邦賢等	医学書局	不詳	後以《現代医学(医学門徑語)》之書名鉛字版
168	長寿之條件		丁福保	医学書局	不詳	
169	最新医学指南		医学書局	医学書局	1930年	読秀
170	肺癆病	丁福保		医学書局	1926年7月	劉
171	赤痢新論	華文祺	志賀潔	不詳	不詳	《医学指南正統三合編》(1922)
172	花柳病療法	丁福保		文明書局	宣統元年4月初版, 宣統3年8月再版	
173	医学補習科講義(2冊)	丁福保	日本医学諸家	文明書局, 医学書局	1908年	松枝、劉、牛。牛認為該書與1935年版《国医補習科講義》為同一種書。
174	家庭侍疾法		丁福保	文明書局	宣統2年8月	
175	中国經驗良方		万鈞	医学書局	1926年8月	
176	中外病名對照表		吳建原	医学書局	1915年4月出版, 1919年8月再版	
177	医海一滴		万鈞	医学書局	不詳	読秀
178	中西医方会通		丁福保	文明書局	宣統2年5月	
179	实用經驗治療学		葉祖章編, 万寶琛校	医学書局	1920年3月	
180	新内經 新靈樞		丁福保	医学書局	光緒34年9月初版, 1926年2月5版	初版文明書局
181	新内經 第1集 新素問		丁福保	文明書局	不詳	
182	公民医学必讀		丁福保	医学書局	宣統元年正月初版, 1916年5月3版	

表2：新たに追加した目録（55種）

番号	書名	訳(述)者	作者(編撰者)	出版社	時間	備考
1	医学指南統編		丁福保	医学書局	宣統2年2月初版, 1912年6月再版	

2	簡明医学教科書				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
3	中国医学史清之医学第九章				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
4	医学碎金録				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
5	医学筆記十種		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
6	医学小叢書四種		丁福保	医学書局	1939年1月	読秀
7	丁氏一家言		丁福保	医学書局	不詳	
8	医海文庫		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
9	医学叢刊		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
10	生理学中外名詞對照表		孫祖烈	医学書局	1917年	読秀
11	衛生(学)文庫		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”。目録是《衛生学文庫》，廣告是《衛生文庫》
12	衛生碎金録		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
13	衛生叢刊		丁福保	医学書局	不詳	
14	維納内科学				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
15	樓麻質斯彙編	孫祖烈		医学書局	1917年5月	
16	花柳病学叢刊		万鈞	医学書局	1917年1月出版, 1920年4月再版	
17	花柳病救護法		陳邦賢	医学書局	1927年10月	
18	伍氏泌尿器病学 諾氏花柳病学 合編				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
19	肺癆病学叢刊				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
20	外科診療要訣				不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
21	安氏外科学 皮氏外科学 合編	丁福保		医学書局	1927年2月出版	
22	兒科学叢刊		万鈞	医学書局	不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”
23	莫氏小兒科学 惠氏 兒科学	丁福保		医学書局	1918年4月	
24	簡明調剂学	張彭年			不詳	《歷代医学書目提要》(1918)“医学書籍目録”，《上海医学書局出版目録 第9號》(1936)
25	心身強健之秘訣	徐雲	藤田靈斎	医学書局	不詳	
26	衛生学問答九章		丁福保	疇隱廬重印本	辛丑9月	

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究（王）

27	解剖学生理学訳名異同表	丁福保		不詳	不詳	《医学指南正統三合編》(1922)
28	食物衛生学		俞伯銘	文明書局	光緒34年?	《医学指南正統三合編》(1922)
29	医余叢錄		丁福保	不詳	不詳	《医学指南正統三合編》(1922)
30	实用良方一夕談	李詳麟	青木藤五郎	不詳	不詳	《医学指南正統三合編》(1922)
31	中国医学史		陳邦賢	医学書局	1929年2月	
32	育兒法之模範	孫祖烈	田村貞策、朝夷孤舟		不詳	《医学指南正統三合編》(1922)
33	生命之花		丁惠康	医学書局	1926年10月	
34	胎産必讀		黃階泰	医学書局	不詳	
35	人類的性病		丁文毅	医学書局	不詳	読秀
36	美容衛生法		丁惠康	医学書局	1933	読秀
37	新本草教本		顧子靜	医学書局	1930年1月	1930年初版無錫中医講習所講義
38	新中藥		黃勞逸	医学書局	1930年9月出版, 1934年7月4版	
39	漢藥神效方	沈乾一	石原保秀	医学書局	1929	読秀
40	考試医学之秘笈 太医局程文		丁福保	医学書局	不詳	読秀
41	不服藥之自然療法	黃階泰		医学書局	不詳	
42	青年最危險之一問題 (青春的烈火)	濟陽破衲		医学書局	不詳	読秀
43	素食主義			医学書局	不詳	
44	煤油療肺実験集	丁惠康校刊	日本黎明会編	医学書局	1934	読秀
45	肺病用煤油治癒之 実験記	丁惠康校刊		医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
46	傷寒發微		曹穎甫	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
47	避妊法		王逸慧	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
48	幸福之花		丁惠康編	医学書局	不詳	読秀
49	幸福之敵		丁惠康編	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
50	青年科学		丁惠康編	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
51	精神病学一夕談		丁惠康	医学書局	不詳	《出版目錄 第9號》(1936)
52	外科総論		徐雲、万鈞	医学書局	1929年5月	
53	美容法		丁福保	医学書局		《出版目錄 第9號》(1936)
54	実験療肺学		丁惠康	医学書局	1936年7月	
55	新青年之模範		丁福保	上海世界書局	1922年7月	

表3：底本確定の目録（35種）

番号	訳書名	訳（述）者	作者（編撰者）	原著名
1	竹氏産婆学	丁福保	竹中成憲	簡易産婆学（半田屋医籍，1900年）
2	身之肥瘦法	丁福保，徐雲	田村化三郎著	肥える法瘦せる法 （読売新聞社，1908年4月1日）
3	組織学総論	下工	二村領次郎	組織学総論 2版（金原商店，1911年）
4	病原細菌学 （前編 後編）	丁福保	佐佐木秀一著，緒方正規、 横手千代之助関	病原細菌学 前後
5	漢法医典	丁福保	日本漢医八十翁井上香彦先生 経験，日本医学士野津猛男	臨床漢法医典
6	瘰癧之原因及治法	丁福保	三輪徳寛	外科叢書 第1編 淋巴腺結核一 附・淋巴管結核（吐鳳堂，1909年）
7	新纂兒科学	丁福保	伊藤亀治郎	新纂兒科学（南江堂，1901年7月）
8	応用診断学	万鈞	下平用彩	診断学 後編 増訂15版 （吐鳳堂，1909年）
9	内科全書	丁福保	河内竜若著，丸茂文良関	内科全書：臨床受験備考 （南江堂，1902年6月）
10	子之有無法	丁福保，徐雲	田村化三郎	子の有る法無い法 （読売新聞社，1908年7月）
11	肺癆病預防法	丁福保	竹中成憲	通俗肺病予防養生法 （半田屋医籍，1899年12月）
12	無薬療病法	華申祺訳，丁福保校	系（糸）左近	無薬療法 （田村奈良吉，1907年12月）
13	外科学一夕談	丁福保	桂秀馬	外科講話（家庭衛生講話：第9編） （博文館，1908年11月）
14	臨床病理学	丁福保	田中祐吉	臨床病理学 上 下巻
15	近世催眠術	華文祺，丁福保	熊代彦太郎	新催眠術（内外出版協会，1910年1月）
16	新撰病理学講義	丁福保	田中祐吉	病理総論
17	医界之鐵椎	丁福保	和田啓十郎	医界之鐵椎（南江堂，1910年8月）
18	近世内科全書（上，下冊）	丁福保	橋本節齋	近世内科全書
19	新撰解剖学講義	丁福保	森田齊次	解剖学講義 上下巻
20	生理学講義	孫祖烈	宮入慶之助	生理学講義（半田屋医籍，1912年1月）
21	皮膚病学美容法	丁福保	山田弘倫	皮膚病学ヨリノ美容法 （南山堂，1909年5月）
22	妊婦診察法	丁福保	宮田権之丞	妊婦診察法（朝陽堂，1909年5月）
23	（漢訳）臨床医典	丁福保	筒井八百珠	臨床医典
24	新万国薬方	丁福保	恩田重信	新撰処方一万集
25	臨床内分泌病学	下工	横森賢治郎	臨床内分泌病学（南江堂，1929年）
26	普通衛生救急治療法	盧予甫	金沢巖	通俗治療救急法（博文館，1900年9月）
27	診断学大成	丁福保	橋本節斎	近世診断学
28	肺癆実験新療法	丁惠康	小田部莊三郎	呼吸器病と運動療法 （実業之日本社，1928年）
29	実用人體寄生蟲病編	丁福保	小西俊三著	実用人體寄生蟲病編
30	産科学初步	丁福保	伊庭秀榮 著，浜田玄達 関	簡明産婆学：復習問答 （博文館，1906年12月）
31	肺癆病学一夕談	丁福保	鈴木孝之助	通俗肺病患者撰生法：附・肺病予防 法（東京印刷株式会社，1903年）

「丁氏医学叢書」に関する書誌的研究（王）

32	中外医通	丁福保	赤木勘三郎	和漢薬製剤篇 (同濟号書房, 1909年4月)
33	簡明外科学	万鈞	川村泰次郎	簡明外科汎論 (博文館, 1906年10月)
34	赤痢新論	華文祺	志賀潔	『伝染病論：臨牀細菌学』の 「アメーバ赤痢（熱帯赤痢）」
35	育兒法之模範	孫祖烈	田村貞策、朝夷孤舟	育兒の務（家庭百科全書：第7編） (博文館, 1908年4月)

参考文献

日本語：

松枝茂（1944）「日支医学交流史上の人丁福保（下）」『日本医史学雑誌』1333：264-274
二村領次郎（1911）『組織学総論』2版金原商店

中国語：

丁福保（1908）「丁氏医学叢書総序」『竹氏産婆学』上海文明書局：1-6；（1913）「改正丁氏医学叢書総序」『普通医学新智識』文明書局：1-5；（1918）「医学書籍目録」『歴代医学書目提要』；（1922）『医学指南正統三合編』
顧彦聰（1926）「丁氏医学叢書総序」丁福保（訳）『内科学綱要』上海：医学書局：1-4
劉玄（2015）『通俗知識與現代性：丁福保與近代上海医学知識の大衆傳播』花木蘭文化出版社
牛亜華・馮立昇（2004）「丁福保與近代中日医学交流」『中国科技史料』25-4：315-329
上海医学書局（1936年）『出版目録（第9版）』
吳苗（2019）「中国近代首部漢訳日文産科学著作《竹氏産婆学》探析」『中華医史雜誌』49-3：139-145
下工（1913）『組織学総論』上海：医学書局
下工（1930）『組織学総論』上海：医学書局
張曉（2012）『近代漢訳西学書目提要』北京：北京大学出版社
鄒振環（2011）「丁福保與“丁氏医学叢書”」『東方翻譯』2011(6)：37-46

ウェブサイト：

国立国会図書館デジタルコレクション：<https://dl.ndl.go.jp/>（日本：国会）
読秀：<https://www.duxiu.com/>（中国北京：北京世紀読秀技術有限公司）
CADAL 数字図書館：<https://cadal.edu.cn/index/>（China Academic Digital Associative Library, 中国数字図書館国際合作計画）
抗日戦争與近代中日关系文献数据平台：<https://e-resource.bnu.edu.cn/databaseNav/entrance/detail?mmsid=9910621382303961>（中国社会科学院、中国歴史研究院、国家図書館、国家档案局版權所有，中国歴史研究院近代史研究所）
晚清民国教材全庫：<https://e-esource.bnu.edu.cn/databaseNav/entrance/detail?mmsid=9912011880703961>（中国北京：北京師範大学図書館）

謝辞

本稿はJST事務所「考動力人材育成プロジェクト」による研究成果の一部である。論文執筆の際、ゼミで指導教官の藤田高夫先生と副指導教官の沈国威先生より多くのご指導を頂きました。併せて心よりお礼を申し上げます。

